

第4回魅力発信部会の内容（要旨）

1 説明報告内容

(1) 第5回リニア駅周辺整備検討会議の報告

リニア推進課から、過日開催された本会議の報告について、資料に基づき説明がされた。

(2) 魅力発信施設等に関する提案について

観光課から、これまでに提出された魅力発信施設に対する提案について、意見を集約した資料に基づき説明がされた。

2 魅力発信施設のあり方について

飯田市リニア駅周辺整備検討会議委員・日本経済研究所調査局長 大西達也氏より、魅力発信施設のあり方についてお話を伺った。内容については以下のとおり。

(1) 魅力の創出に向けた地域主体の観光振興について

- ・ リニアが開通することで人口増、ホテル・宿泊業の活性化、新幹線通勤などが期待されてきたが、新幹線通勤は過去のものになり、かつては多かった通勤用車両は減少している。逆に期待すべきは飯田に別荘を構えて来訪する「週末飯田族」や、ネットを通じて自宅で仕事ができる業種（SOHO）などである。
- ・ 観光客の価値観が変化している。量・安さ重視からゆったり・上質・少量にシフト。お金を落とすのは駅周辺ではなく、市街地から1～2km離れた集落になっている。
- ・ 2035年頃までには首都圏までも人口減少・超高齢化社会となる。旅行の「目的地」であり続けるためには、歴史に根ざした本物の生活文化を維持する住民、地域独自の高付加価値製品が必要である。
- ・ 行政、企業、住民の3者で地域活性化を図ることは、それぞれの目的が異なるため難しい。しかし、間にNPOや市民団体といった別の担い手を挟むことで、まちづくりが円滑に進むことがある（津軽海峡マグロ女子会など）。
- ・ まずは郷土愛の育成から始め、それによって住民から来訪者への伝達、交流が促進され、地域のファン（リピーター）が増える。こうした好循環を生み出すためには、住民たちの活動が外部評価されることが求められる。魅力発信の主体は、現地の住民である。魅力発信を自ら主導していく住民を発掘し、組織化していく必要がある。

(2) 全国の事例（紹介事例の一部）

- ・ 徳島県徳島市「とくしまマルシェ」 地元銀行主導の月1回の市場が常設店舗に発展した。
- ・ 島根県松江市「堀川遊覧船」 住民のボランティアを活用した市内観光。ボランティア同士が切磋琢磨する環境を形成し、退職後の生き甲斐を創出している。
- ・ 青森県八戸市「八戸ポータルミュージアムはっち」 美術館機能、公民館機能、観光案内などが集約されている。住民、観光客、ビジネス客など様々な利用者が交流できる。
- ・ 北海道函館市「バル街」 当初は住民向けに始めたイベントだったが、観光客を集めている。全国に広がったバルの発祥である。

(3) 北海道新幹線における新駅の事例

- ・ 木古内駅 駅前にロータリーを設置し、その対岸に道の駅が付設されている。
- ・ 新函館北斗駅 駅の周囲には畑が広がっている。駅舎には「弁当カフェ」がある他、「北斗市観光交流センター」が併設され、観光案内所が入っている。

3 その他

- ・ 今後は大西氏等からアドバイスをいただきながら事務局で骨子案を作成することが承認された。
- ・ 次回の部会は、6月中旬～7月中旬頃を予定している。